

再評価個表

事業名	通常砂防事業	事業主体	愛媛県
施設・工区名等	(砂)イモホリ川	事業箇所	今治市宮窪町宮窪 ^{みやくぼちょうみやくぼ}
事業主旨	<p>当溪流は、愛媛県今治市宮窪町宮窪に位置し、被害想定区域に小学校（指定避難所）が存在する土石流危険溪流（ランクⅠ）である。</p> <p>溪床には平均 30cm の転石が流出・堆積しており、集中豪雨時に土石流が発生する恐れがあるため、砂防堰堤を整備し、土砂災害を未然に防止する。</p>		
再評価の実施理由	「事業採択後 5 年が経過して継続中」の補助事業		

1. 地域の概要

<p>(砂)イモホリ川は、愛媛県今治市宮窪町宮窪に位置し、二級河川大川に合流する土石流危険溪流である。溪流勾配は、下流で 1/6.8～8.8、上流で 1/2.8～1/3.9 と非常に急勾配である。</p> <p>流域内の土地利用形態としては、下流は市道や現在は放置されて荒地と化した耕作地がある外は山林で、林相は一部針葉樹林が確認できるが概ね広葉樹である。</p> <p>下流の被害想定区域には、人家 106 戸、国道 361m（一次緊急輸送路）宮窪小学校（指定避難所）等が存在するが、本流域内には、土砂流出を防止するための砂防施設が整備されておらず、集中豪雨等による土砂災害の発生時には、保全対象に甚大な被害を生じる恐れがある。</p> <p>実際に平成 30 年の西日本豪雨で土砂が流出して、本溪流は大きな被害を受けている。</p>
--

2. 事業概要及び事業経緯

事業採択	平成 29 年度 <small>※平成 31 年度より交付金事業から補助事業へ移行</small>	完成予定(注)	令和 7 年度（見込み）
用地着手	平成 31 年度	工事着手	令和 2 年度
全体事業費	472 百万円（うち用地費：7 百万円）		
(1)事業概要	砂防堰堤 1 基、付替道路 430 m		
(2)事業経緯	<p>土砂災害警戒区域等指定：平成 27 年 7 月</p> <p>事業採択：平成 29 年度</p> <p>補助事業へ移行：平成 31 年度</p> <p>砂防指定：令和 2 年 6 月</p> <p>工事着手：令和 2 年度</p>		

(注)完成予定は、今後の予算の見通しや工事の進捗等の不確定要素がある為、現時点で見込みを示す。

3. 事業の必要性及び整備効果等

(1)事業の必要性	<p>本溪流は、土石流危険溪流（ランクⅠ）であるが、現在は無施設（砂防施設）である。流域内には、不安定な土砂、流木が残留しており、集中豪雨時に土石流が発生する恐れがある。</p> <p>土砂災害警戒区域内には、人家 106 戸及び、一次緊急輸送路である国道 317 号、指定避難所である宮窪小学校があり、これら保全施設の土石流による被害軽減を図るため砂防整備を継続し、土砂災害対策を進める必要がある。</p>
(2)事業の整備効果	<p>砂防施設を整備することで、年超過確率 1/100 の土石流に対して、人家 106 戸及び、一次緊急輸送路の国道 317 号、指定避難所である宮窪小学校の人命、財産が保全される。</p>
(3)事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>世帯数や人口は年々減少傾向で、地域に大きな開発等は見られないが、しまなみ海道サイクリングや村上海賊ミュージアム等、観光地として賑わいが見られる。</p> <p>地元関係者からの要望により事業化された経緯もあり、地元との調整は完了している。</p>

4. 事業の進捗状況及び進捗の見込み

(うち用地費) R4 未投資事業費	(7 百万円) [進捗率：100.0%] (事業費換算) 305 百万円 [進捗率：64.6%] (事業費換算)
(1)事業の進捗状況	<p>用地は取得済みである。(平成31年度)</p> <p>工事は付替道路から行い、令和3年度から本堤工事を開始して現在施工中である。</p> <p>令和4年度末で本堤は約70%、付替道路は約60%が完成している。</p>
(2)これまでの整備効果	<p>本堤は未完成の為、整備効果は発現していない。</p>
(3)今後の事業進捗の見込み	<p>令和5年度に付替道路を完成させ、令和6年度から令和7年度にかけて本堤、前庭保護工及び付替道路の舗装を施工して事業完了となる見込みである。</p>

5. 事業の投資効果（費用対効果分析）

(1) 費用便益比

C：総経費＝513.2百万円

- ・建設費 511.2百万円
- ・維持管理費 2.0百万円

B：総便益＝10,033.9百万円

- ・一般資産 2,392.7百万円（家屋106戸）
- ・公共土木施設 1,188.5百万円（消防署、小学校）
- ・人身被害 484.6百万円（想定死者数27人）
- ・間接被害抑止効果 5,947.3百万円（営業停止、精神的損害等）
- ・残存価値 20.8百万円

$$B/C = 10,033.9 / 513.2 = 19.55$$

6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

本事業では、コスト縮減として以下の内容に取り組んでいる。

- ① 埋戻し材料及び盛土材料には、建設発生材を有効活用する。また、残土搬出については公共工事間流用が図れるよう、各関係機関との情報交換を積極的に行う。

7. その他

計画砂防堰堤は、透過型堰堤を採用することで、少ない地形改変で土石流の捕捉機能を効果的に発揮できる。

また平時の溪流環境の保全機能を有する為、動植物の生息域の遮断防止や下流河川への無害な土砂供給による河床低下防止効果も期待できる。

8. 対応方針（素案）

本事業については、以下の理由を踏まえ、『継続』としたい。

- ① 土石流危険溪流（ランクⅠ）であるが、現在は無施設で、次期豪雨等により土砂災害の発生が懸念されるため、砂防設備の整備により住民生活の安定を図る必要がある。
- ② 費用便益比は『 $B/C = 19.55$ 』であり、事業効果が十分に見込めること。
- ③ 地元からの砂防施設の設置要望が強く、地元協力体制が整っていること。